

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200302		
法人名	特定非営利活動法人ソーシャル・ネットワーク		
事業所名	グループホームぬくもりの里かも		
所在地	岐阜県美濃加茂市加茂野町鷹之巣2239番地		
自己評価作成日	平成28年8月15日	評価結果市町村受理日	平成28年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2015_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2171200302-00&amp;PrfCd=21&amp;Versi.onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2015_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2171200302-00&amp;PrfCd=21&amp;Versi.onCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成28年9月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームぬくもりの里かもでは、田園地帯の中で自然が多く残されており住み良い環境の中に建てられています。それらを一周する散歩コースでは、田植えや収穫を見たり、四季折々の草花を観察して頂くことが出来ます。又、住居ではゆったりとした居室、大きなリビングなど住み易い快適な空間が広がっています。季節に合わせた行事が盛りだくさんです。(花見・夏まつり等)又、年に1回1泊旅行に行き、皆さんの楽しみひとつになっています。職員のほとんどが、「認知症サポーター養成講座」を受講し、オレンジリングを持っており、認知症介護の専門性を大いに発揮しています。医療面では、月2回の往診を受けて頂き、健康管理・口腔衛生・服薬管理を行っています。各棟に看護師を配置し、急病などの場合も迅速に対応しています。各専門医療院と連携し、万が一に備えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣住民が自主的に地域お助け隊を編成し、緊急時の連絡網を作って持参された。お助け隊が避難訓練に参加して、どの利用者に車椅子が必要なのか分からないと意見を出し、職員間で話し合っ表札に車椅子のイラストを付けた。地域の方から畑を借り、協力を得て野菜等を作っている。収穫時期に地域の方から声をかけていただき利用者も一緒に手伝っている。自治会長からは運営推進会議に参加することで、グループホームの制度を知ることが出来てありがたいと言葉があった。市の担当者から依頼されて職員が認知症高齢者の探索訓練に模擬高齢者として参加している。管理者は、利用者に誠意を持って接することで家族から信頼が得られると説明し、実践に繋げることで地域から協力や信頼が得られている事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月2回のカンファレンスにおいて、法人理念・介護理念を唱和し、理念の共有をしています。また、「穏やかに ゆっくり」というモットーを掲げ、常に意識し介護を行っています。	法人の理念を基に介護の理念を作った。管理者は、職員が責任を持ってケアに取り組むことで家族から信頼が得られ、事業所の信頼にも繋がるかと説明し実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事への積極的な参加と、園児・地域ボランティアの積極的な受け入れをしている。	地域の方から畑を借り、協力を得て野菜等を作り、収穫は利用者も一緒に手伝っている。地域の夏祭りや保育園の行事に出掛けている。保育園児や中学生、シルバーボランティアが事業所を訪れ交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	資格取得時の実習・市内の中学生の職業体験などの受け入れを行っています。又、市が実施した認知症高齢者の探索訓練において職員が高齢者のモデルとして参加しました。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	夜間に運営推進会議を開催し、大半の方の参加を頂いています。参加者の方や、知人の経験談等を話して頂いており、当施設への取り組みに活かしています。	メンバーが参加し易いように夜間に会議を行い現況や活動報告を行っている。管理者から、会議への出席を利用者に促すことで、出席して意見を述べた。家族の代表者が出席しているが、出席しない家族等は会議の内容を知ることができない。	事業所の運営についての理解や運営推進会議について、多く意見を求めるためにも会議の内容を広く知ることが出来るように検討して欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いており、情報交換を密に取り、連携を心掛けています。	市の担当者や地域包括支援センターに定期的にパンフレットを持って行き、事業所の取組等を報告している。地域の代表者から助言を得て事業所前にある用水路について市の担当者に相談し、市長の視察が行われた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する外部研修に参加し、内部の会議等で話し合っている。身体拘束をしないケアを常に確認しあい、実践している。	家族に対し、契約時に拘束しないことを説明している。点滴を行うときに家族に相談して付き添っていただくなど理解と協力が得られている。拘束しないケアを職員間で話し合い見守りや声掛けなど工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については外部研修を受講し、内部会議にて話し合い、虐待についての共通の認識を持っている。		

グループホームぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関しての外部研修に参加できる機会があれば、活用し支援していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、利用者・家族の方が不明な点、疑問点があれば、十分時間を取り説明をし、理解して頂けるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時には時間を頂き、ご意見・ご要望をお聞きしている。出た意見については、すぐに検討し対応している。	家族の訪問時に、介護記録を見せながら利用者の状態を説明し、意見や要望を聞いている。家族会では、家族の意見からテーマを選び話し合っている。管理者は、家族の意見や要望を職員に伝えて話し合いサービスに繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を聞く機会を作り、その都度話している。休憩時間の見直しが行われた。	管理者は、職員の意見や要望が反映し易いように各ユニットの責任者に責任を持たせている。責任者は、管理者に職員の意見を伝えていく。職員の意見からトイレの入り口や居室の入口にカーテンを設置した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理職や職員個々の実績や努力・勤務状況等を把握し、それを基に考課表により問題点をあげ、各自が向上心が持てるように、職場環境や条件の整備に努め、楽しく働けるようにしている。子育て支援制度を新しく設けた。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理職や職員に対して、外部研修・社内研修を行っている。又、職員の資格取得については積極的にスキルアップを図れるようにバックアップしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設相互訪問を通じ、情報交換を図っている。		

グループホームぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴し、寄り添うケアに努め、職員間で情報共有し、利用者が安心して生活出来るような関係作りを心掛けています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の困りごとや要望などを時間をかけてじっくりと聞き取れるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族と話し合い、その時に必要な支援を見極め、適切なサービス利用に繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一日の中で、レクや物作りの時間を作り、共に話し合い、関わりを持つようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意見を聞きながら、共に支えあう気持ちを持って利用者を支援していく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、馴染みの美容院に行ったり、墓参りなどに外出。外出時に家族や友人と外食したりしている。	手書きの近況報告に「お立ち寄り下さい」と記入し来訪をお願いしている。利用者から会いたい人の名前を聞き家族に伝え、面会に繋げた。馴染みのお好み焼き屋が閉店することを聞き、家族に依頼し外食に出掛けた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の合う利用者同士の関係を見極め、良好な関係が保てるように支援している。		

グループホームぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移られた後でも面会などさせて頂いています。又、施設側とも連携し、より良いケアが行えるように支援させて頂いています。看取りをさせて頂いたご家族にはお見送り・七七日には献花させて頂いています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さんとの会話から趣味や特技を把握し、そこを充実できるように取り組みをしている。	一日の出来事を書き残すことで、その時の気持ちを把握できる利用者もある。利用者に話題を提供して思いや意向を把握している。困難な方には気分の良い時に声を掛けるなど状態に合わせて聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前には、利用しているサービス提供の場に出向き、サービス利用の経過把握や、生活歴などの把握に努めています。入所後は、カンファレンスにて情報の共有に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の一日の過ごし方を介護記録に記載し現状の把握に努めている。変化があれば申し送りし、特に注意するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能な限りご家族の同席の担当者会議の開催を心掛けている。それを基にサービス計画書を作成している。	家族へ事前にサービス担当者会議の期日を連絡して出席を促している。毎月、介護を振り返り、日常的な問題を把握して職員間で話し合っているが、介護計画に対する職員への理解と認識が薄い。	職員が日常的に介護計画を認識できるように定期的にモニタリングを行い、職員の意見や気づきを反映した介護計画となるように工夫して欲しい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録に記入し、職員間で情報を共有し、より良いケアに繋げられるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者・家族の要望について柔軟な支援をするように努めている。		

グループホームぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くに畑をお借りし、野菜作りを通じ地域の方々との繋がりを持ち、心豊かな暮らしを送るように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医・協力医は本人、家族の意向に合わせている。他科受診は、家族に依頼しており、本人の状態等は常にご家族と共有し、連携に努めている。	希望する眼科や耳鼻科、整形外科は家族の協力を得て受診している。精神科を受診する場合は時系列で生活の様子を書面にして家族に渡している。受診の結果については看護職員が家族に確認している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ユニット毎に看護師を配置し、医療的な事への対応を全面的にバックアップする体制にあります。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して治療を受けられるように、ご家族・病院と良好な関係が保てるように努めています。又、病院の相談員との連携を密に取って、情報収集に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の重度化に伴い、その都度、医師・家族・看護師等と話し合いながら対応している。看取りも行っている。救急対応は、消防署や看護師による指導にて職員が全員研修を受けています。	入居時に重度化や終末期の方針を利用者と家族に説明している。状態の変化に応じて家族と話し合っている。協力医には、日曜日や夜間も含め24時間連絡を取ることができる。看護職員は、事例から看取り期のケアについて説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	職員は、応急手当や初期対応の講習を行い、実践力を身につけるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間の火災を想定した避難訓練を定期的に行っています。近隣の連絡網を作り地域との協力体制が図られており、災害時の避難場所としての受け入れを受託している。	夜間想定も含め年4回の避難訓練を行っている。近隣の方がお助け隊を編成し連絡網を作り事業所に持参された。お助け隊が訓練に参加し、どの利用者に車椅子が必要なのかわからないとの意見から居室の表札にイラストを付けた。	

グループホームぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、トイレ前や居室入口にカーテンを設置し、外から見えないようにしている。人生の先輩として尊重し、言葉かけや対応をしている。	居室入口に丈長の暖簾を掛け、エアコンの苦手な方がドアを開けていても中が見えないように工夫している。利用者の生活歴を把握し、個々に合わせた内容の声掛けや会話を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の色々な場面で自己決定が出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に、出来る限り希望に沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時の着替えなど、ご自分で選んで頂けるように支援し、隔月の出張床屋にて散髪をしてもらっています。又、家族の協力により馴染みの美容院に行かれる方もおられます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	年間の献立表を立ててはいますが、誕生日や行事に合わせてその都度メニューの変更をしたり、外出時に外食したりすることもあります。片づけ等一緒にして頂くこともあります。	季節に合わせた手作りおやつや家族からいただいた栗を使った栗ご飯などが食卓の話題の中心となっていた。利用者は調理の下処理や下膳など出来ることを手伝っている。誕生月には利用者の希望で外食に出掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスや水分補給、毎食後に摂取量を記入し、個人個人の栄養補給の支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っています。ケア困難な方には職員が歯磨きティッシュを使用し、口腔衛生に努めています。		

グループホームぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄チェック表から利用者の排泄パターンを把握している。	出来る限りオムツを使用せずトイレでの排泄に取り組んでいる。立位が困難な方に対しては職員間で話し合い工程表を作成して計画的に行っている。声掛けを行ってから誘導するなど気持ち良く排泄が出来るように心掛けている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫、十分な水分補給、看護師による排便コントロールを行っています。又、排泄チェック表から、その人それぞれの排泄パターンに応じた対応を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	重度者の方も、2人介助で、可能な限り浴槽に入って頂けるように支援しています。必要と判断した利用者さんに対しては足浴・マッサージを行っています。	女性の利用者から要望があり、同性介助を行っている。利用者の表情を確認しながら、歌を歌ったり昔の出来事を聞いたりして楽しめるよう心掛けている。季節に合わせた柚子湯や菖蒲湯を行い楽しんで入浴できるように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調を考慮し、午前や午後に休息の時間を設けています。足背や下肢に浮腫がある方には、足挙上にて改善に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の介護記録に薬の説明書が綴っており、薬の事が一目でわかるようになっています。服薬時には、名前・日付などを利用者と一緒に声に出して確認し、誤薬のないように細心の注意を払っています。内科と心療内科の薬は一目で区別がつくように工夫しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人それぞれに合った役割を見付け、支援を行っています。又、外出等で気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩に出掛けたり、戸外に出る機会を作っている。喫茶店や町内の春祭りに出掛けています。又、誕生月には担当者との外出でご希望の場所へお連れしてます。	天気や陽気が良くなると利用者から散歩に出掛けたいと希望があり、出来る限り出掛けている。足上げ体操を日課として行い外出への意欲に繋げている。日帰り旅行や、花見、保育園のお遊戯会への参加など希望を聞いて出掛けている。	

グループホームぬくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、入所の方でお金を持っている方がおられない為、支援はしていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	四季の手紙は定期的を書いて頂けるように支援しています。又、電話を希望される方には取次などの支援をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には利用者との共同作業で作成した作品が飾られおり、季節感を表現している。廊下にはベンチ、リビングにはソファを配置し寛げるように配慮している。	利用者と一緒に作った季節のちぎり絵や作品が飾られている。日帰り旅行や外食、事業所内の行事など写真を飾り思い出話ができるように工夫している。廊下に置いてあるベンチが、利用者の居心地の良いお気に入りの場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには2人掛けや3人掛けソファが置かれ、寛ぎの空間となっている。又、廊下のベンチは憩いの場となっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望でテレビや椅子、筆筒などの調度品を置いています。居室で本や新聞を読む方もおられ、自分の居室も寛ぎの空間になっています。	家族の協力を得てダンスやテレビ、掛け軸など使い慣れたものを持ち込んでいる。市長、家族が参加して事業所にて行われた100歳のお祝い会の写真が飾られていた。職員と一緒に居室の掃除をしたり、季節の花を飾ったり居心地の良い居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体がバリアフリーになっており、トイレ・廊下には手すりが設置されていて安全・安心で自由に自立した生活が送れるようになっています。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171200302		
法人名	特定非営利活動法人ソーシャル・ネットワーク		
事業所名	グループホームぬくもりの里かもの		
所在地	岐阜県美濃加茂市加茂野町鷹之巣2239番地		
自己評価作成日	平成28年8月15日	評価結果市町村受理日	平成28年11月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_1_2015_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2171200302-00&amp;PrEfCd=21&amp;Versi_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_1_2015_022_kani=true&amp;ji_gyosyoCd=2171200302-00&amp;PrEfCd=21&amp;Versi_onCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成28年9月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月2回のカンファレンスにおいて、法人理念及び介護理念を唱和し理念を共有、実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	春祭りや夏祭り等地域の行事に積極的に参加し地域との交流をしています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 <a href="http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2171200302-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2171200302-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>	資格取得時の実習や中学生の職業体験等の受け入れを行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政、地域包括支援センター、入所者家族の代表、民生委員、自治会長等の意見をサービス向上に繋げています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	随時行政と連絡を取り合い事業所の実情及びケアサービスの取り組みを伝え協力関係に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修を受講し身体拘束をしないケアに取り組んでいます。玄関の施錠を外し中庭を自由開放しています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修を受講し虐待防止に努めています。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修を受講しそれらを活用できるように支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約及び解約時に利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解を得るようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に意見や要望を伺っており又、家族会などで出た意見についてもすぐに検討し対応しています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のカンファレンスにおいて職員の意見や提案を運営に反映しています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように就業環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員に対して、法人内外の研修を行い資格取得についても積極的に進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互訪問を通じ取り組みをしています。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の要望、不安に傾聴し職員間において情報の共有をし安心して生活できるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思い要望に傾聴し信頼関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と話し合い必要な支援を見極め対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お手伝いをして頂いたり、物作りを一緒にやったり、共に過ごし支え合うようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションを取り、意見を聞きながら共に支えていく関係を築けるよう努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や家族等に年賀状や暑中見舞いなどのお便りを出したり手紙のやり取りなどを支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、利用者同士が支え合えるような関係支援に努めています。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に入所された後でも面会させて頂き関係を大切にして断ち切らないように努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方の希望を聞き取れるように話を聞く時間を設けています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前には利用しているサービス提供の場に出向き、サービス利用の経過の把握や家族への聞き取りにより生活歴を把握し情報の共有に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録や申し送りにより現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能な限り家族同席のサービス担当者会議の開催を心掛け介護計画を作成しています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を記入し職員間で情報を共有し実践に活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	作成しています。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くに畑をお借りし野菜作りをしたり、施設の夏祭りに地域の方々に参加して頂き、地域との繋がりを持ち心豊かな暮らしを送れるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族等の希望を大切にし協力医とは24時間いつでも指示が仰げる関係にあります。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ユニット毎に看護師を配置し、情報を共有し適切な受診や看護を受けられるように支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際、安心して治療を受けられるようにご家族、病院と良好な関係が保てるように努めています。又、病院の相談員との情報交換や相談に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向けた方針については、マニュアルが整備されており、家族とは事前に話し合いを行い、看取りも行っています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は応急手当や初期対応の訓練を行い実践力を身に付けるように努力しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災を想定した避難誘導訓練を行っています。消防署への通報訓練は年4回行っています。又、自治会やご近所お助け隊の連絡網を作り地域との協力体制を築いています。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーに配慮し、トイレ前や居室入口にカーテンを設置し外から見えないようにしています。又、プライドを傷つけないよう声掛けをしています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お茶の時間やレクの時間など色々な場面で自己決定が出来るように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に出来る限り希望に添った支援をしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の洗顔後のお顔のお手入れをされたり、家族の協力の下馴染みの美容院に行かれる方もおられます。入浴後の着替えなどご自分で選んで頂けるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、消毒、お膳拭きなど役割を持って頂いています。食事は利用者と職員と一緒に食べて片づけをしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや水分補給、毎食後に摂取量を記入し、個々の栄養補給の支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には口腔ケアを行っています。ケアが困難な方には職員が歯磨きティッシュを使用し、口腔衛生に努めています。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄管理表を活用して、トイレでの排泄を支援しています。自覚なく何度も行かれる方には声掛けさせて頂いています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫、十分な水分補給、看護師による排便コントロールを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴順を決めず、その日の体調や気分に応じて入浴して頂いています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の体調を考慮し、午前や午後に休息の時間を設けています。足背や下肢に浮腫がある方には足挙上にて改善に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の介護記録に薬の説明書が綴っており、薬のことが一目で分かるようになっている。服薬時には、名前・日付などを利用者と一緒に声に出して確認し、誤薬の無いように細心の注意を払っています。内科と心療内科の薬は一目で区別がつくようになっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人それぞれに合った役割を見付け、支援を行っています。又、花見・日帰り旅行等で気分転換を図っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入所者全員で一緒に散歩に出掛けたりします。町内の運動会や夏祭りに参加したり、喫茶店にお出掛けしたりしています。		

グループホーム めくもりの里かもの

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在、入所の方でお金を持っている方がおられない為支援はしていません。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	四季の手紙は定期的を書いて頂けるように、葉書の準備をしたり、隣に着き、書くことが出来るように声掛けをしています。又自宅への電話も支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや、浴室入り口にはカーテンを設置し人目に触れないように配慮しています。又、不快な光が入らないようにトイレにはブラインドを取り付けています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには3人掛けソファが置かれ、廊下にはベンチが設置され、それぞれ寛ぎの空間となっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望で畳を部分敷きにしたたり、筆筒などの調度品を置いています。居室で本や新聞を読まれる方もおられます。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設全体がバリアフリーになっており、トイレ・廊下には手すりが設置されていて安全・安心で自由に自立した生活が送れるようになっています。		